

ジェノゲスト(以下 DNG)の子宮内膜症患者における腹腔内免疫細胞機能への影響に関する研究

1. 研究の対象

2018 年 10 月～2026 年 9 月に当院で腹腔鏡手術を受ける方

2. 研究目的・方法

本研究は子宮内膜症における免疫細胞の機能を解明することにより発症原因の一端を明らかにすることを目的としています。

子宮内膜症は月経を有する女性の約 10%に存在すると言われており、月経痛だけでなく慢性の下腹痛や腰痛などの痛みにより女性の QOL を著しく阻害する疾患です。また、たとえ軽症であっても妊娠力を低下させ不妊の原因となります。さらに、卵巣内に発症した子宮内膜症の病変である卵巣チョコレート嚢胞を長期間放置するとがん化する危険性もあります。

また、現在子宮内膜症でなくとも月経痛のある女性は将来子宮内膜症になるリスクがあると報告されています。しかし、リスクがある女性が産婦人科を受診して適切なケアを受けることで、子宮内膜症になること自体も予防することができ、QOL の向上、不妊や卵巣癌の予防などにつなげることが可能です。ただし、どのような人が子宮内膜症になるのかを調べる方法は確立していません。

子宮内膜症の発症には腹腔内の免疫細胞が関与していることがわかっています。免疫細胞の機能は個人差があり、その機能低下により子宮内膜症を発症しやすい可能性があります。子宮内膜症における免疫細胞の機能を解明することにより、内膜症を発症しやすい人を血液検査などで見つけることができれば子宮内膜症を予防し、将来的な不妊・卵巣癌を防ぐことが可能になります。

本研究は子宮内膜症の原因を研究することにより将来の子宮内膜症予防法の確立することを目指しています。

この研究のために患者さんに新たな採血などの侵襲はありません。高知大学医学部附属病院産科婦人科で治療に必要な採血・開腹時に血液と腹水を採取させていただきます。その中の免疫細胞の機能などを解析し、内膜症と非内膜症の患者さんで比較しその違いから子宮内膜症の原因を解明します。

研究期間は 2018 年 10 月～2026 年 9 月とします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、月経歴、治療歴、カルテ番号 等

試料：血液、腹腔鏡手術で採取した腹水

タイムラプスにより得られた免疫担当細胞の動態を記録した動画 等

4. 外部への試料・情報の提供

外部へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

持田製薬 開発研究所 研究責任者 梶川 知

高知工科大学システム工学群 Soft Intelligent SoC 研究室 星野 孝総

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

高知大学医学部 産科婦人科学講座 山本 槇平

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

電話：088-880-2383

FAX：088-880-2384

研究責任者：

高知大学医学部附属病院 産婦人科 前田 長正

研究代表者：

高知大学医学部附属病院 産婦人科 山本 槇平